

NEWS RELEASE

複数校がオンラインでともに学ぶ質の高い救命学習

日本 AED 財団第7回 school フォーラムにて、公立学校7校(四日市市・松阪市)と
 オンラインで行う保健の授業実践

- 三重大学教育学部附属小学校(長井 直己 教諭、増田 尚美 養護教諭)と三重大学医学部附属病院高度救命救急・総合集中治療センター(鈴木 圭 教授)が連携し、救命教育の実践を行う。
- 実践テーマは、『救命処置ができる市民の育成』である。自分がバイスタンダーになった時、怖がらず、自ら処置しようとする児童の育成を目指す。
- 今年度は、2月7日(金)に実施される。当日は、日本 AED 財団第7回 school フォーラムとして多くの参会者(市議会議員、消防関係者、教員、保護者等100名程度)の前で授業提案を行い、その後、シンポジウムが行われる。
- 今年度は、四日市市と松阪市の小学校計7校の5年生の教室とオンラインでつなぎ、ともに学ぶ。生き生きと深く学ぶ児童の様子を取材いただきたい。
- シンポジウムでは、文部科学省調査官、医師、児童、教諭らがシンポジストとなり、フォーラムのテーマである『学校での突然死ゼロ』を目指すための方法をディスカッションする。

【概要】

○当日の授業内容について

当日は、なぜ「強く、速く、絶え間なく」胸骨圧迫をするとよいのかについて、映像や資料をもとにして児童が考える授業を行う。考えていく中で、心臓を潰すために胸を5cmほど押す、胸骨圧迫時は常時の7分の2の量の血液しか脳に運ぶことができないために通常時の約2倍の速さで胸を押す、一度圧迫を止めてしまうと血液の循環が止まってしまうために途切れなく圧迫するといった体や胸骨圧迫の仕組みを知る。このように医学的な視点で考えることで、児童がバイスタンダーとして質の高い胸骨圧迫を行えるようになることをねらいとしている。

○当日の授業システムについて

当日は、四日市市立日永小学校(5年生3学級)、四日市市立県小学校(5年生2学級)、四日市市立常磐小学校(5年生4学級)、松阪市立西黒部小学校(5年生1学級)、松阪市立中原小学校(5年生1学級)、松阪市立柿野小学校(5年生1学級)、松阪市立宮前小学校(5年生1学級)の計7校と附属小学校(3学級)をオンラインでつなぎ、同じ学習課題のもと、それぞれの学級で出た考えを交流する。



教室での授業の様子



授業システム

○当日まで、当日以降の授業内容について

当日まで、多くの児童が「救命処置は大人がすること」と思っているため、実際にこれまで起こった小学生が学校で心肺停止になって助からなかった事例や、自宅で小学生が家族に救命処置をして助かった事例から、救命処置は「子どもでもできる」という自分事にする。そして、救急車到着前にバイスタンダーが行う救命処置と、救急車到着後に救急救命士や看護師、医師が行う救命処置は同じ心肺蘇生を行っていることを知り、バイスタンダーの重要性を学ぶ。当日以降は、心肺蘇生法や他のけがに対する簡単な応急処置を実際に行ったり、けがの予防について考えたりする。

○救命教育について

この国は、一般市民が目撃した中で、一般市民に処置された傷病者数が58%に留まっている。中学校の学習指導要領では、救命処置の学習が必須化されているものの、小学校では発展的な内容として取り扱われている。附属小学校では、三重大学医学部附属病院高度救命救急・総合集中治療センターの医師・救急救命士ら医療従事者と連携し、救命処置を学ぶ授業実践を毎年行っている。今年度の春には、昨年度救命処置を学んだ6年生が、保護者に救命処置を教えるという取組も行った。



授業で心肺蘇生法を学ぶ様子



児童が保護者に心肺蘇生法を教える様子

○当日行われるシンポジウムについて

医師等医療・救急関係者、学校や教育委員会、文部科学省等教育関係者、保護者などによるシンポジウムを通して、「学校での当然死ゼロ」を目指す取り組みを探究します。（詳細は別紙）

○公益財団法人日本AED財団について

AEDの普及啓発の推進の国家レベルの活動を進めるために設立された財団である。学校での救命処置の実習が定着すること、学校やスポーツでの心臓突然死ゼロ、AED設置大規模展開等を達成目標としている。

今年度の授業は以下の日程で行います。ぜひともご取材のほど、よろしくお願いします。

日 時：令和7年2月7日(金)13時00分～16時00分
場 所：三重大学教育学部附属小学校(津市観音寺町359)
総合棟 ICT 教室(授業)、体育館(シンポジウム)
内 容：保健「けがの防止」の授業公開、シンポジウム

<本件に関するお問合せ>

三重大学教育学部附属小学校 教諭 長井 直己

TEL: 059-227-1295 E-mail: nanagai@fuzoku.edu.mie-u.ac.jp